

Ⅱ 【報告】神戸市水の科学博物館の休館について

1. 水の科学博物館の課題

- ・水の科学博物館は、奥平野浄水場の「旧急速ろ過場上屋」を保存活用する形で平成元年にオープンして以来、水道事業の広報拠点としての役割を担ってきた。
- ・しかし、新型コロナウイルス感染防止の観点からは、十分な広さが確保できず、また、厚生労働省が推奨する換気等のための開閉できる窓の数が不足していること、館内の展示物が体験型・接触型であり感染防止を講じながら効率的な運営を行うことが困難であること、などから従来通りの団体見学の受け入れが困難となっている。
- ・一方で、今年度は全市的な観点から、国の登録有形文化財に登録されている建物の魅力をより活用できる用途への転換について調査・検討するため、民間事業者に対するサウンディング型市場調査を実施していたが、調査に興味を示していた事業者から、経済状況の急激な変化により、一旦、活用策の提案を見合わせたい旨の申し出もあり、調査を一時中断している。

2. これまでの対策と実績

(1) 対策

- ① 3/ 3～5/31 全館休館（緊急事態宣言発令期間を含む）
- ② 6/ 2～現在 感染リスクの低い屋外のみを開放

〔うち、市内小学生の夏休み期間（7/23～8/17）は、
館内テーマシアターのみ事前予約制で開放〕

(2) 実績

- ・6－8月期の来館者数
令和2年度 682人（令和元年度 17,130人）

3. 今後の方針

- ・感染防止対策として利用人数の大幅な制限等を実施しながら広報拠点として活用し続けることが難しいため、水の科学博物館は10月から休館とする。
- ・今後の広報については、「with コロナ」時代に対応した、WEBや動画などを中心とした展開に取り組む。
- ・水の科学博物館の建物利用については、今後の社会・経済情勢を踏まえつつ、引き続き全市的な活用の観点から、民間事業者とも連携した検討を継続する。

(参考) 神戸市水の科学博物館の概要

1. 設置目的

水及び水道に関する資料を収集し、及び展示して市民の利用に供することにより、水道事業に関する知識の普及及び啓発を図ることを目的とする。

2. 所在地

神戸市兵庫区楠谷町37番1号

3. 開設時期

平成元年4月

4. 主な施設内容と規模構造

①水の科学博物館（大正6年築 設計：河合浩蔵氏）

- ・構造・規模 鉄骨鉄筋コンクリート，鉄骨造，鉄筋コンクリート造 2階建て
- ・建築面積 606.16m²
- ・延床面積 1,098.29m²
- ・施設内容 1階 テーマシアター・水の実験室・展示室
2階 展示室

②事務所

- ・構造・規模 鉄筋コンクリート造 2階建て
- ・建築面積 176.07m²
- ・延床面積 315.42m² *鉄骨造付属建物あり（資材置き場利用）
- ・施設内容 1階 事務室
2階 会議室

③来館者専用駐車場

- ・敷地面積 471.70m²
- ・駐車台数 7台

5. 休館日及び開館時間

- (1) 休館日 毎週月曜日（ただし，月曜日が祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月28日から1月4日）
- (2) 開館時間 午前9時30分～午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

6. 利用状況

令和元年度入館者数 45,746人